



菊地雄哉さん(43歳・ジェラート職人)

手作りのおいしさ究める

仙台市泉区のジェラート専門店「ジェラテリア リベルタ」店主の菊地雄哉さん(43)は10年前の33歳の時、ジェラートの世界に飛び込んだ。日本のジェラート界をリードする師匠と出会い、人生が変わった。ジェラートの本場イタリアで認められ、自分の店を開くようになるまで、どんな思いや苦労があったんだろう。

(1面に関連記事)
私がジェラートと出会ったのは2015年9月。勤めていた仙台市のクレープ店でジェラートを販売するため、石川県の専門店「マルガージェラート」に研修に行ったのがきっかけです。今思えば当たり前です



「ジェラートは老若男女を問わず好きな特別な存在」と話す菊地さん

が、濃度や滑らかさが市販のアイスとは全然違いました。「手作りジェラートってこんなにうまいんだ」って。

仙台に戻り、ジェラートを販売すると行列ができる人気店になりました。「もっと勉強して、旬の食材を使いたい。もっとジェラートも作りたい」と、16年にマルガに就職しました。

師匠の柴野大造さん(51)は、15年の日本ジェラート協会主催のコンテストでチャンピオンに輝いた日本ジェラート界の第一人者です。マルガは家族経営の店で、元々は牧場を営んでいました。牛乳に関する知識やチーズ、ヨーグルトの作り方を基礎から学び、日々のジェラート製造、移動販売も任されました。移動販売では多い日に約1400個を1人で販売したこともあります。

たときも、トップクラスの職人に負けないレベルで作ることができ、そこでの評価が世界ジェラート騎士につながりました。

「おいしい」の正解は地域によっても、時代によっても変わります。味を究めるのは答えのない数学のようなものですが、数字や栄養成分に興味があっても面白くない仕事だと思っています。

「この材料を使ってどんなジェラートを作ろうかな」。ジェラートのイメージが膨らむ材料と出合い、そんな風に考えるのもジェラート職人の楽しみです。

きくち・ゆうや 仙台市泉区出身。ノースアジア大卒。2016年、石川県のジェラート店経営マルガー入社。20年に独立し、泉区で「ジェラテリア リベルタ」開店。イタリアジェラート協会任命の世界ジェラート騎士、日本ジェラート協会公認マエストロ。

学力UPのキギは国語力!!

河北春秋 3 ステップ

STEP 1 基礎力アップ

書き写す

「河北春秋」の文字数は約500字。書き写すことで、作文力や読解力、漢字力といった「国語力」が向上します。また、分からない単語を調べると語彙力もアップします。

STEP 2 論説文対策

100字で要約する

「河北春秋」の要約は論説文対策にピッタリ。読み解いて分かりやすく伝える文章の練習になります。

STEP 3 小説問題対策

自分の意見や感想を書く

自分の考えを50字以内で書きましょう。小説問題は文章の行間を読み、自分の考えを制限字数内で簡潔にまとめる練習が役立ちます。

河北新報のコラム「河北春秋」を活用した学習法をご紹介します。ベテラン記者が執筆した文章を読むことで、豊かな言葉や表現が身につきます。また旬の話題や時事問題にも強くなります。

チョイ読みで時事力UP

入試では、新聞記事を使った出題が増加傾向。新聞をめくり「見出しだけ」チェックしましょう。世の中の動きを効率よく知ることができます。

「河北春秋」はここ!

新聞を
活用して
をつけよう!

まずは1週間
お試しください

ご希望の方に、「河北春秋書き写し1週間お試し版」をお届けします。また、河北新報をお読みでない場合は、新聞も1週間お届けします。右の二次元コードよりお申し込みください。



ご購入の
お申し込みは...

フリーダイヤル

オーク ミ ナ ヨ ム

0120-09-3746

受付 7:00~19:00



お問い合わせ 河北新報社 販売部 (平日10:00~17:00)
TEL.022-211-1302 FAX.022-211-1188

※お申込みいただきました個人情報は、弊社と河北新報販売店で適切に管理し、商品の発送、各種ご連絡・ご案内に利用させていただきます。河北新報社のプライバシーポリシー(個人情報保護方針) <https://np.kahoku.co.jp/privacy.html>をご確認ください。